

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,38 2021年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワシーくん」



バードウォッチングへの誘い③⑥

「自然の恵みを生かした持続可能な地域活性化がイヌワシを守る①」

蜂蜜の森から⑩「ツタンカーメンと蜜ろう」

「ベニマシコ」3月 鶴岡市 撮影：土屋和哉様

自然の恵みを生かした 持続可能な地域活性化が イヌワシを守る! ①

絶滅危惧種イヌワシは、ここ30年間で急激に個体数が減少している鳥類です。そのため環境省では種の保存法に基づいて希少種に指定し、減少要因の解明や個体数を増やすための取り組みを行っています。これまでの調査研究から、実はイヌワシは私たちの生活様式の影響を受けて減少していることがわかってきました。一方で自然環境を利用して地域活性化を目指す取り組みが全国各地で行われており、実はそれが意図せずイヌワシの生息環境の改善に寄与しているといった事例もあるようです。今回は各地で利用されている仕組みとその活用例の前編です。

【仕組み①】 森林認証制度

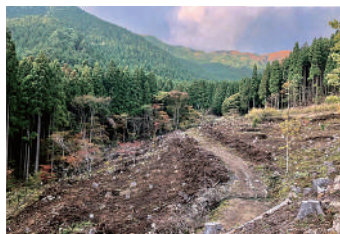
森 森林認証制度とは適切な管理がなされた森、そこから切り出される木材に、認証ラベルを付けることで、消費者に持続可能性に配慮した木材・製品を選んで購入する機会を提供する制度です。その木材の生産、流通などが法律に反していないことなどを担保し、森林の機能に加え、生物多様性の維持向上などがマークの有無によって可視化されることで、市場における差別化、ブランドの確立などにつながります。消費者は森林認証マークのついた製品を購入することで、森林整備などの環境保全活動を支援することになります。



FSC森林認証マーク/写真提供:FSC®ジャパン

西栗倉村では、役場が森林所有者から森林を預かり、森林の間伐、作業道整備を行う取り組みをしています。これらの森がFSC®認証を取得することで、林業事業体全体の資質向上にもつながっています。

百年の森林構想



岡山県西栗倉村
写真提供:百年の森林構想(株式会社百森)

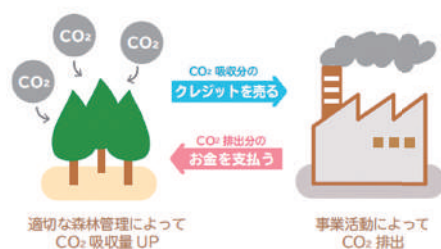


写真提供:株式会社西栗倉・森の学校

「ヒトテマキット」デザートスプーン・フォークなどさまざまなバリエーションが揃う。西栗倉産の無垢材を購入者自らひと手間加えることで世界に一つだけのカトラリーに。パッケージにはFSC®認証マークの表示があり、環境意識の高い人への贈り物にも。

【仕組み②】 J-クレジット

イヌワシをはじめとするさまざまな生き物を育む豊かな自然環境を維持するためにも、持続的な森林の管理・整備はとても重要です。持続的な森林経営が、森林の温室効果ガス吸収量の増加につながり、さらに収益へとつながる仕組みの一つに、クレジット制度があります。



CO₂などの温室効果ガスの排出削減または吸収量の増加につながる事業を実施している企業・農業者・森林所有者・地方自治体などは、排出削減量や吸収増加量を「クレジット」として国に認証してもらい、それらを売却することができ、その売却益を排出削減・吸収増加のための事業の投資費用の回収やさらなる投資に活用することが可能です。

一方で、クレジットを購入する企業なども、クレジットの購入を通じて、排出削減・吸収増加のための事業を後押し

し企業評価向上につなげることや、製品・サービスに係るCO₂など排出量をオフセットすることで、それら製品・サービスの差別化・ブランディングに活用することができます。

こうしたクレジットには現在、世界各国でさまざまな制度がありますが、日本国内で利用できる代表的なクレジットの一つがJ-クレジットで、企業による活用も広がりつつあります。

三井物産のクレジット活用



J-クレジット対象地 | 似洞山林と作業風景
写真提供: 三井物産株式会社

三井物産は、環境・社会問題に積極的に対応すべく、事業活動を通じてさまざまな取り組みを進めています。気候

変動対応についても経営上の重要課題ととらえ、再生可能エネルギーなどのCO₂発生抑制に寄与する事業や、エネルギー消費の効率改善に寄与する事業を推進しています。こうした取り組みの一つとして、同社ではJ-クレジットも活用しています。

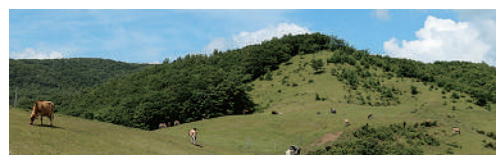
三井物産は本社ビルの使用電力に、関係会社である甲南ユーティリティ株式会社(以下「甲南ユーティリティ」)のバイオマス発電で創出した、再生可能エネルギー由来のクレジットを適用し、RE100要件(※1)を満たす電力としています。加えて、国内の全ての支社支店と研修所を含む事業所で使用する電力にも、甲南ユーティリティや「三井物産の森」から創出されるクレジットを適用、オフセットすることで、実質CO₂フリーを実現しています。

この取り組みでは「三井物産の森」が年間約16万トン(※2)のCO₂を吸収・固定する機能の一部を有効活用していますが、この「三井物産の森」は日本全国74か所(約44,000ヘクタール)に広がり、生物多様性の観点から重要性が高いエリア(全体の約10%)が生物多様性保護林に設定されています。これら保護林の適切な維持と管理をすることで、イヌワシを含む生物の生息環境の改善や生物多様性の向上につながっています。

(※1) RE100要件: RE100は、事業活動で消費するエネルギーを100%再生可能エネルギーで調達することを目標とする国際的イニシアチブ。RE100要件は、同イニシアチブが各国の制度上の違いなども考慮した上で、再生可能エネルギー見合いとして計上できる電力を定義したもの。
(※2) 三井物産試算(根拠「IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventories」 Tier 2)

【仕組み③】 6次産業化

農林漁業者が生産だけでなく、加工に加えて流通・販売までトータルで行う取り組みを「1次産業×2次産業×3次産業=6次産業」といいます。異業種連携により新たな価値が生み出されることで、地域の雇用確保と所得の向上につながります。



中洞牧場 | 岩手県岩泉町 / 写真提供: なかほら牧場

岩手県のなかほら牧場で行われている山地酪農は、自然放牧のため気温や飼料の変化によって原乳の質に違いが出ますが、他の牧場の原乳を混ぜることなく牧場内で加工しており、安定した製品を届けことが可能となっています。適正価格での販売は地方の雇用も生み出し、フェアトレードの点でも効果があります。



中洞牧場牛乳
写真提供: なかほら牧場

小冊子
『自然の恵みを生かした
持続可能な地域活性化
事例集』
ができました!



全国の自治体および森林管理団体に頒布されます。

◆次回は「CSR・支援制度・観光振興・地域通貨」について解説します。

庄内の動物情報コーナー

前号で庄内地方は大雪だったとお伝えしていますが、発行直後から天候が穏やかになりはじめ、結局2月下旬からは豪雪から一転して暖冬傾向になりました。桜の開花も例年よりも早く、目まぐるしい季節の変化に、私たちの体もそうですが、環境全体がついてけないのではないかという印象です。各地の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2021/1/15 「ハクガン」 酒田市
雪国の山形県酒田市では、毎年ハクチョウをはじめとする多くの水鳥が訪れます。雪原のガンの群れの中に白いガンが・・・雪に慣れば見つけるのは朝飯前！？
撮影：小池侑多様



2021/1/31 「シジュウカラガン」酒田市
太平洋側ではみられることの多いシジュウカラガンですが、今年は酒田市にも群れで来てくれました。あごの下の白い三日月模様が特徴なのですが、ツキノワガンでは語呂が悪いですからね。
撮影：渡会様



2021/2/1 「アカエリカイツブリ」 酒田市
暴風雪が吹き荒れた翌日、アカエリカイツブリの幼鳥が保護されました。経験が少ない若い個体が保護されることは多いのですが、何事もなく自然に復帰できたようで良かったです。この子はきっと大物になる。
撮影：酒田市環境衛生課



2021/2/3 「ヨシガモ」 鶴岡市
通称「ナポレオンハット」と呼ばれるヨシガモが、鶴岡市街を流れる川を泳いでいました。市街地の環境は、自然環境の広がりが少ない分生き物の数は多くありませんが、見つけられたら観察するにはもってこいですね。
撮影：毛呂様



2021/2/5 「ハイタカ」 鶴岡市
はく製？いえ、夕方にガレージの中に迷い込んだハイタカです。鋭いツメやクチバシに気を付けて逃がしてあげたそうです。小型だからと言って油断は禁物ですからね。
撮影：上野様



2021/2/13 「ウミスズメ」 酒田市
ウミフクロウ、ウミネコ、ウミスズメ。さてこの中で鳥ではないのはどれでしょうか？ウミネコは有名な鳥ですね。あと2択でウミスズメがここに載っているという事は・・・。
撮影：とし様



2021/2/13 「ヒメウ」 酒田市
「黒い鳥日本代表は、ヒメウ、カラス(ハシブト、ハシボソ)、クロサギ以上。」「監督！クロサギは灰色だと思います！」
撮影：たっちゃん様



2021/2/28 「オオバン」 鶴岡市
真っ黒な体と白い額板が特徴的な水鳥。これよりも小さい「バン」もありますが、クチバシは赤いので、簡単に区別できます。ちなみにこのオオバンは昔、やぶにわとりと呼ばれていたそうですよ。撮影：秋葉様



2021/2/13 「ミヤマホオジロ」 酒田市
顔に黄色い色が入っていれば、ホオキイロとは言わず、ミヤマホオジロ。ミヤマというほど山奥でくらすしているわけでもなく・・・。「異議あり！」
撮影：土屋様



2021/3/17「アメリカヒドリ」酒田市
完全なアメリカヒドリではなく、交雑した個体ようですが、クチバシの基部に入る黒いラインがアメリカンな証拠のようです。
撮影：渡会様



2021/3/27「ヤツガシラ」酒田市
酒田市の離島飛島では、毎年ヤツガシラがやってきますが、今年3月には観察されました。「いや～暖かかったからねえ～来ちゃった～」
撮影：とし様



2021/3/30「ハシビロガモ」鶴岡市
オーバーサイズなクチバシ。きっとクチバシの下は死角なので、凶悪な目つきで敵が近寄らないようにできているのだと思われます。しかしこれは首がつかれそう～
撮影：たっちん様

全国の動物情報コーナー



2021/2/12「オオワシ」新潟県
迫力満点の飛翔は、畳が飛んでいると形容されるほど！翼開長は250cm！
撮影：波多様



2021/2/14「タゲリ」神奈川県
「田園の貴婦人」と呼ばれるタゲリ。頭部の跳ねた冠羽が、いかにも中世ヨーロッパの貴族女性に流行した帽子の羽飾りのようです。え？オスでしたか？
撮影：こまたん金子様



2021/2/22「チョウゲンボウ」神奈川県
工場の他、大型商業施設の屋上などにもよく飛来するので、最近観察報告の多い猛禽類です。
撮影：こまたん様

環境省 鳥海南麓自然保護官着任のご挨拶

澤野 歩美 自然保護官

はじめまして。4月より鳥海南麓自然保護官事務所に着任した澤野歩美です。前任地は月山の麓にある羽黒自然保護官事務所、主に国立公園関連業務をしておりました。今後は鳥海山の麓にある鳥海南麓自然保護官事務所、希少猛禽類にかかわる業務担当とのことで、今は緊張感でいっぱいです。

子供のころ、将来の夢は「野鳥観察舎で働く人」でした。図鑑で眺めていた野鳥を野外で見つけた時や、反対に野外で出会った野鳥の名前を図鑑で知った時のわくわく感、「ここにはあの鳥がいそうだな」と思った場所で本当にその鳥を見つけたときのうれしさを、自分がそうしてもらったように、人に伝える仕事がしたいと思っていました。

鳥海南麓自然保護官事務所は鳥海イヌワシみらい館の中にあり、その夢に近づいた気持ちです。鳥海イヌワシみらい館を通して猛禽類とその生息環境を多くの方に紹介し、猛禽ファン、生き物ファンを増やすとともに、その中にある鳥海南麓自然保護官事務所では、希少猛禽類を保全していくためにできることを行政の立場で考えるのが使命なのかなと考えているところです。

これまでに学んだことは、一人では何もできないという事です。関係する皆様と連携を大切にしながら仕事をしたいと思っています。

鳥好きではありますが、まだ野外で一度もイヌワシを見たことがありません。初心者として一から業務に取り組んでまいりますので、皆さま宜しくお願い致します。





蜂蜜の森から 第17回「ツタンカーメンと蜜ろうそく」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第17回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



ミツバチの巣に灯芯をはさんで灯しても
“ろうそく”として使用できる (撮影：松田 絵美子さん)



有名なツタンカーメン王の黄金のマスクにも
“接着剤”として蜜ろうが使われている

蜜ろうはハチ蜜生産が盛んに行われていた紀元前の古代エジプト時代には、すでに用いられていたそうです。ミイラの棺の中には、死者を慰めるために入れたと考えられる蜜ろうの人形がいくつも発見されています。この蜜ろうの人形は薫人形のようにも使われていたそうなので、蜜ろうには呪術的な特別な力があると思われていたのかもしれない。

また、紀元前1300年代のツタンカーメン王の墓からは4台の燭台が発見され、蜜ろうキャンドルが灯されていたと推測されています。これについては、オリーブオイルの燭台説を唱える研究者もいらしますが、私も蜜ろうに間違いはないだろうと思っています。

なにしろ、蜜ろうは灯芯を2枚の巣板で挟んだだけでも、きれいな灯りがとります。誰でも簡単に作れるものなのです。それに、ハチミツ生産が盛んなら蜜ろうもふんだんにあったはずですから、照明に使わないわけはなかったと思うのです。

以前テレビで、ピラミッド内部の照明の謎を扱っていた特集を見たことがあります。そこでは、何かを燃やしたはずだが壁の内部に煤(すす)が付着していないことが不思議だとし、鏡をいくつも反射させて光源にした説や、すでに電球が使われていたのではという奇天烈な説まで伝えていました。私はすぐに、蜜ろうを灯していたのだらうと思いました。精製度の低い蜜ろうでも、適切な太さの灯芯を使えば煤は出ないからです。



安藤竜二 (あんど う りゅうじ)
1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうソク製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。NPO法人朝日町エコミュージアム協会副理事長。アシナガバチ畑移住プロジェクト主宰。近著『手作りを楽しむ蜜ろう入門』(農文協)・編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

事務局

今年はやまが早く
孟宗も早く
梅雨も早くなりそう
猛禽類の生活に影響
はないのかな？(後)

希少種保護増殖等専門員

春の山菜が美味すぎて
食欲が収まりません。そ
ろそろネマガリタケの
シーズンですね！(長)

鳥海南麓自然保護官

3年間勤務しましたが、この度羽黒自然保護官事務所に異動することとなりました。猛禽類保護センターの関係者の皆様には大変お世話になりました。異動先が近くなので今後もセンターに顔を出すことも多々あると思います。引き続きよろしくお願ひ致します。(澤)

編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 6月~7月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・無休

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

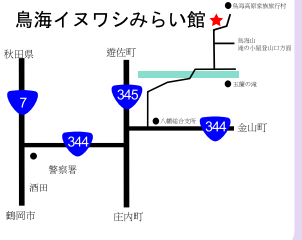
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.38 春号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)